

太古より響きくるスピリット、
踏みしめる大地のタップカル

第29回

秋の縄文野焼き祭り

2019年10月13日(日) (雨天時14日)

【時間】午前9:00～午後4:00

【会場】猪風来美術館前広場

入場無料 (駐車場あり)

●縄文野焼きを皆で体感しよう!

見学・撮影自由です。スタッフ希望は事前にご連絡ください。

●縄文 大地の精霊ダンス

縄文土器文様から再現創作したダンス。作品の焼き上がり後に皆で輪になって踊り、大地と炎への感謝を表します。

●縄文野焼き大賞

焼き上がった作品から表彰されます!

●縄文体験コーナー

縄文土器で煮炊きをしよう!
土偶や勾玉をつくろう!

●販売コーナー

昼食・飲み物など販売いたします

■主催 新見市教育委員会・猪風来美術館(新見市法曾陶芸館)・法曾焼同好会

■お問い合わせ先 猪風来美術館 〒719-2552 岡山県新見市法曾609 TEL・FAX 0867-75-2444 <http://www.ifurai.jp>

 猪風来美術館
新見市法曾陶芸館

第29回 秋の縄文野焼き祭り

● 世界の人々を魅了する縄文の美

1万5千年以上前に生まれた世界の器文化のルーツのひとつである縄文土器、その類例のない独自の造形美がいま世界の人々を魅了しています。今年3月にはアメリカ コロラド州ボルダーで“縄文の祭典 A Celebration of JOMON”が開催され、猪風来と村上原野らによって北米大陸初の縄文野焼きの炎が立ちのぼりました。大自然の生命原理に根ざした豊かな精神性が織りなす縄文造形は、今後さらなる新時代の芸術の炎を燃えさからせるでしょう。

● 縄文野焼き祭りとは？

大地から天に開かれた窯のない野炉で、太陽と風と火の力によって土器・土偶を焼き上げる「縄文野焼き」は、大地に抱かれて生きる縄文スピリットの真髄そのもの。陶芸教室生や法曾焼同好会員の作品を、スタッフ・協力者たち皆で焼き上げます。立ちのぼる炎の中で、土に新たな命が宿る瞬間を体感することができます。

● 縄文土器で煮炊きしよう！

縄文時代には炉にすえた土器で温かい汁物を作り食べていました。みんなで土器に薪をくべて、野性味ある汁物を作ってみよう！
☆（12時頃～／無料）

縄文野焼き大賞

この日に焼き上がった作品の中から、とくに素晴らしい縄文造形や縄文スピリットにあふれる作品を選考し、『縄文野焼き大賞』など各賞を表彰いたします。

縄文体験コーナー

● 石でまが玉をつくろう！

まが玉は生命の根源のかたち。しあわせを祈り魔を祓う力が宿っています。
☆（随時／黒・ピンク・白各500円）

● 粘土でつくろう！

縄文粘土でちいさな土器や土偶・オブジェなどを作ってみよう。縄目文様を入れると縄文の魂が宿ります！
☆（随時／300円）

● 館内案内

館内では常設展のほか、企画展『土田哲也×中山裕那 縄文土器と土偶二人展-萌えたついのち 祈りのかたち-』を開催しております。ぜひご覧ください。（観覧料が必要です）

販売コーナー

地元の法曾焼同好会が、昼食やお飲み物のほか、法曾焼茶碗や法曾茶を販売いたします。どうぞご利用ください。

猪風来美術館
新見市法曾陶芸館
<http://www.ifurai.jp>

■ アクセス

岡山から車で約90分
岡山空港から車で約70分
賀陽ICから車で約45分
新見ICから車で約30分
井倉駅からタクシーで約15分
方谷駅からタクシーで約10分



縄文 大地の精霊ダンス

古来、祭りの場には踊りが不可欠でした。縄文の踊りとはいったい、どのようなものだったのでしょうか？ その手掛かりはきっと縄文人の刻んだ文様の中に。今回、縄文土器文様から再現創作したダンスを縄文野焼き祭りで初披露いたします。作品の焼き上がり後に皆で輪になって踊り、大地と炎への感謝を表します。ぜひご参加ください。

■ 日時 2019年10月13日（日）9:00～16:00（雨天時14日）

■ 会場 猪風来美術館前広場 ※入場無料（館内は要観覧料）

■ 主催 新見市教育委員会・猪風来美術館（新見市法曾陶芸館）
法曾焼同好会

■ お問い合わせ先 猪風来美術館 TEL・FAX 0867-75-2444
〒719-2552 岡山県新見市法曾609